



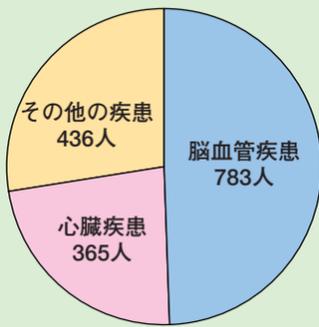
1集中治療室 リハビリスペースが併設され、患者さんの状態に合わせたリハビリが行われます。2救急車専用口 重症処置室に直結し、患者さんを短時間で収容できます。3腎センター 広々としたアメニティーや談話室などあり、ゆとりのスペースが確保されています。4血管撮影室 心臓・脳疾患の血管内手術が可能です。5子ども急病夜間クリニック 4月1日から診療を開始しています。



心臓・脳血管センター

| 階数 | 施設 |
|----|------------------------------------|
| 5階 | 院内保育室、大講堂 |
| 4階 | 腎センター（血液透析室） |
| 3階 | 集中治療室（ICU） |
| 2階 | 循環器センター（CCU）、血管撮影室 |
| 1階 | 子ども急病夜間クリニック、救急ステーション、重症処置室、腎臓内科外来 |

ICU入院患者延べ数（平成23年）



心臓・脳血管センターの1階北側には、草加市消防本部により救急ステーションが設置されます。救急隊と高規格救急車1台が常時配置され、救急医療の充実を図るとともに、救急隊員の知識・技術の向上を目的とした教育の

救急ステーション

す。このことは、脳卒中の患者さんを受け入れるには脳神経外科医師だけではなく、リハビリや栄養管理などのスタッフを擁する専属チームで多角的に管理する必要があるということです。市立病院のICUではリハビリを効果率的に行えるよう、リハビリ室を併設しています。これにより、リハビリ室への移動の時間が短くなり、ICUスタッフの観察のにもリハビリが実施されるため、患者さんの状態把握がより正確になり、安全でより有効なリハビリが行われるようになります。また、面会される方にもリハビリの様子を外から見ただけのように設計されているため、患者さんの精神的な励みになるものと期待されています。

脳神経外科 疾患別入院患者数



子ども急病夜間クリニック

子ども急病夜間クリニックは4月1日に開院しました。同クリニックでは、0歳～15歳の患者さんの診療を行い、

ための拠点施設となります。草加市消防本部では、「消防・救急6分体制」を掲げていますが、救急ステーションが設置されることで、市立病院周辺地域からの救急要請から現場到着までの時間が短縮され、市全体としてもこの体制の範囲がさらに広がります。将来的には、救命機器を搭載したドクターカーを市立病院が運用する計画もあります。また、救急隊員の研修施設として、病院実習や症例研究を行います。医師から指導や助言を受け、傷病者に対する観察力や判断力を修得するなど、救急隊員の質の向上を図る重要な役割を担います。救急ステーションを設置している病院は全国でも数か所しかなく、注目を浴びています。病院と消防が一つの施設で一緒に活動することは、救急医療にとって理想的かつ画期的なことです。草加市が誇る医療体制の一つとなります。前例が少ない施設だけに、試行錯誤しながらの運用になりますが、全国に誇れる施設となるよう活動を展開していきます。

腎センター（血液透析室）

糖尿病の進行により腎機能が悪化し、透析治療が必要となる患者さんが増加しています。市立病院を受診後に透析治療を開始する患者さんに加え、脳卒中や心臓疾患などの合併症を併発している重症透析患者さんにも対応します。各ベッドでは酸素吸入が可能で、重症患者専用ベッドには生体情報モニターが設けられています。なお、診療については市立病院医事課へお問い合わせください。

院内保育室

市立病院で働く医療スタッフの0歳から就学前までの乳幼児を預かる施設です。医療スタッフの業務は、夜勤が頻繁にあり、勤務時間が不規則であることから個々の勤務時間に対応できる保育施設の整備が必要とされました。全国的な医師・看護師不足が叫ばれています。女性スタッフが出産後も子育てをしながら安心して勤務を続けられるよう支援していきます。